

平成29年度を迎えて

院長 千葉成宏

木々の緑がいよいよ濃くなってまいりました。

病院は、今年も多くの新入職員を迎えて、職員一同思いを新たにしています。

5月1日から電子カルテが始まり、外来の受付から診察、そして会計への流れが、かなり変わりましたので、外来の患者様には何かと面倒をおかけしていることと思います。診療に当たる職員も、パソコンの訓練や新しい流れに対応するためのリハースルを重ねてきましたが、しばらくの間は診察時間が長くなり、待ち時間が長くなっていることをお詫びいたします。

これまでの紙カルテから電子カルテに変わることは、患者様にとってメリットがなければ意味がありません。初めのうちは、患者様にとっても病院にとっても時間がかかるなどのデメリットの方が目につくかもしれませんが、受付がそのままカルテにつながるなど、カルテを持ち歩くこともなくなり、情報の共有や伝達のスピードが上がり、安全な医療を提供することにつながるなど、必ずメリットが出てくることと思います。どうぞ温かく見守っていただき、お気づきの点をご指摘くださいますようお願いいたします。

戦後70年を過ぎて、昭和22～26年生まれのいわゆる団塊の世代が、順次後期高齢者になり、今後、医療の需要がピークに達すると考えられております。国は、社会保障費の全予算に占める割合が増大するのを抑えるべく、すでに年金の削減、高齢者医療保険料・介護保険料等の増額を行ってきており、これらはさらに増幅することが予想されます。また、これまでに、医療費を減らすために、病院の、とくに急性期病床や療養病床の数を都道府県別・地域別に、自主的に（という建前で、半強制的に）減らすよう指導しており、在宅医療にシフトするよう誘導しております。一口に在宅医療と言っても、核家族化、夫婦共働きがすすんできているなかで、私達は地域の皆様の健康を守ることが本当に出来るのだろうか心配しています。何とか皆で力を合わせ、多様な社会資源を活用し、様々な職種のメンバーが連携し、地域の医療機関とも連携をしながら地域医療を守っていきたいと思っております。

当院は幸いにも、急性期病棟から地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション機能、慢性期病棟、障害者病棟、さらには精神科病棟を持ついわゆる多機能型地域病院に該当し、また公益財団法人山梨厚生会に属する他の3つの病院と訪問看護や居宅介護等を行うハートフル塩山、健診事業や人間ドックを行う予防医学センターなどと併せ、地域の皆様の健康に関する様々なニーズに対応できるものと思っております。皆様からの相談は、病診連携室、総合相談センターなどでお受けいたします。困りごとは何でもご相談ください。

平成29年度運営目標

* 地域に貢献する医療の提供 *

救急医療、地域包括ケア、回復期医療をはじめ、患者に最適な医療を、山梨厚生会のネットワークを活かして提供することは、当会の設立の理念そのものに立ち返ることでもある。

《重点目標》

1. 診療機能の充実

電子カルテを軌道に乗せ、患者・診療サイド双方にとって有益である運用に進化させて行こう。

2. 安全な医療の提供

質の高い医療のベースは、安全文化のさらなる浸透。互いに協力し補い合って、一歩ずつ前進して行こう。

3. PDCAのCの充実を図る

部門毎に掲げた目標の評価ができる年にしたい。そのためには、臨床指標・質の指標を設定し、可視化を図って行こう。

電子カルテ導入に伴う外来診療変更のご案内

医事部長 川崎 貴洋

当院では、5月1日より電子カルテシステムを導入し稼動を開始しました。導入システムは山梨大学附属病院や山梨県立中央病院でも採用されているシステムで、非常に信頼性の高いものです。電子カルテ化により効率的な診療が可能となることで、患者様へのサービス向上につながると考えております。

稼動開始当初は不慣れな点も多く、患者様に大変ご迷惑をおかけしておりますが、全職員が一丸となり新システムを一日も早く軌道に乗せ患者様のメリットとなりますよう努めていきますので、ご理解とご協力をお願い致します。

外来診療からお会計までのながれ

自動再来受付機又は受付窓口で診療受付を行います。受付でカルテをお受けとり頂くことは不要です。

お名前での呼び出しから、診察、会計時等、受付票の受付番号での呼び出しに変更となります。

自動再来受付機で受付が完了すると、受付票が2部出力されます。受付票1枚と診察券を外来診療ファイル（オレンジ色）に入れ各診療窓口へお出し下さい。もう1枚の受付票は患者様の控えとなりますのでお帰りになるまでお持ち下さい。

診察終了後⑦会計受付窓口にて外来診療ファイル（オレンジ色）をお出し下さい。

会計待ち表示盤にお手持ちの受付票番号が表示されましたら、自動精算機又は⑥会計（精算）窓口にて精算が行えます。

受付開始時間について

- 受付開始は午前8時30分からになります。
- 午前8時30分前の受付は行いませんが、初診患者様の事前登録、保険証の事前確認を行います。
- 受付開始時間になりましたら椅子の番号順に受付を開始いたしますので時間まで椅子にかけてお待ち下さい。受付番号は椅子の番号と異なる場合がございますが、ご了承下さい。

受付番号について

受付票の受付番号は診察時やお会計時などのお呼び出し番号として利用いたします。

お呼び出しなどの時に、お手持ちの受付票番号のご確認をお願いいたします。

本人確認のためお名前を確認させていただくこともございますが、ご協力をお願いいたします。

診療受付は自動再来受付機と②初診受付窓口・③再診受付窓口の3箇所同時進行で行っております。窓口手続き等により、来院した順番と受付番号が異なる場合がございますがご了承下さい。

診察順番について

- 診察は受付票の受付番号順にご案内いたします。
- 複数科受診の2科目以降は、診療科の窓口にて外来診療ファイルをお出しいただいた時点の順番となりますのでご了承下さい。

保険証確認について

1ヶ月以内に保険証の確認がされていない患者様は、受付手続き後に[保険証確認窓口](#)にお立ち寄り下さい。保険証の変更、各種受給者証の取得時はお申し出下さい。

お会計のながれ（会計待ち表示盤と自動精算機について）

- 診療終了後、⑦会計受付窓口にて外来診療ファイルをご返却下さい。診療費の計算を始めます。
- 計算が出来上がると会計待ち表示盤にお手持ちの受付票の受付番号が表示されますので、自動精算機または⑥会計（精算）窓口にてご精算下さい。

歯科受診のご案内

- 歯科を受診される場合も基本的に医科（一般診療）と同じ流れになります。
- 自動再来受付機又は再診受付窓口で受付手続きが必要となります。
- 歯科のみの場合のお支払いは、歯科受付にて行います。

初めて受診される方

- 保険証・各種受給資格者証（お持ちの方）と受付の前に備えてあるピンクの用紙に受診患者様のお名前等を記入し、②初診・紹介受付窓口までお持ち下さい。
- 受付で外来診療ファイル（オレンジ色）を受け取り、問診室又は診察室にお出し下さい。（②初診・紹介受付窓口担当が説明いたします）

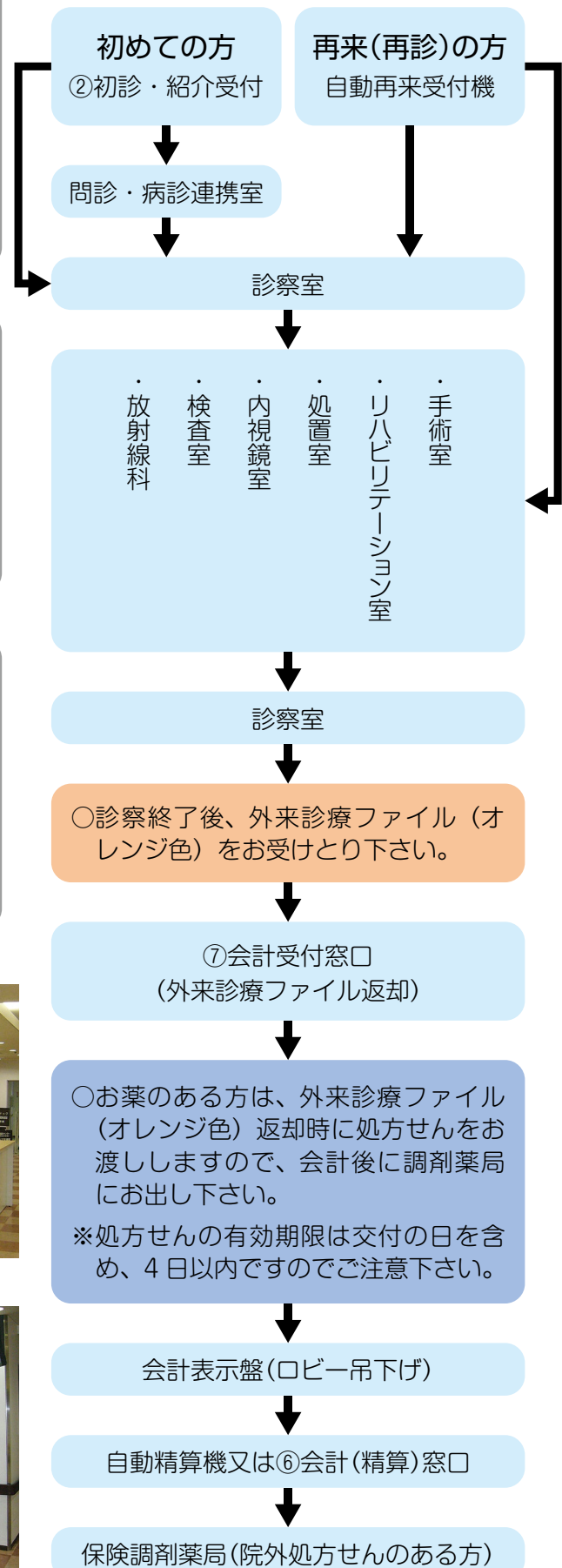
2度目以降に受診される方

- 再来受付機で受診希望科を選択し、発行される受付票と診察券を外来診療ファイル（オレンジ色）に入れ診察室にお出し下さい。
- 予約診察の方は、再来受付機で受付をし、発行される受付票、診察券、予約票を外来診療ファイル（オレンジ色）に入れ、診察室にお出し下さい。

紹介・健診後・ドック後で受診される方

- 紹介状、健診（検診）結果表と保険証・各種受給資格者証（お持ちの方）・診察券（お持ちの方）を②初診・紹介受付窓口までお持ち下さい。
- 受付で外来診療ファイル（オレンジ色）を受け取り、問診又は診察室にお出し下さい。（②初診・紹介受付窓口担当が説明いたします）

外来診療のながれ



自動再来受付機



保険証確認窓口



会計表示盤



自動精算機



電子化に伴い**診察券**が必要となるため、必ず持参をお願いいたします。
来院時間によっては、2科目以降時間的に診察が困難な場合があり、ご希望に添えないことがございます。
問診室または診察室の看護スタッフに複数科受診を希望されることをお申し出下さい。

みんなで“わくわく”しませんか？

認知症看護認定看護師 加賀見さおり・橘田純子

皆様こんにちは！認知症看護認定看護師の加賀見・橘田です。

私達の現在の主な活動は、院内外で認知症の勉強会にお招きいただき「認知症」についての話をさせていただいたり、院内の活動としましては、「院内デイケア」をOPENし企画運営させていただいております。

今回は、当院の「院内デイケア」について紹介させていただきます。

「院内デイケア」とは・・・

入院生活は患者様にとって、普段の生活と違うことにより、ストレスが生じやすく、夜間の不眠や情緒の不安定、一時的な認知機能の障害を招く原因になることがあります。

入院生活の中で、そうしたリスクを軽減し、穏やかな時間を過ごすために、日中の時間を利用し、看護師・介護福祉士が企画する様々なレクレーションに参加していただくことを「院内デイケア」と言います。



当院ではこの「院内デイケア」を、参加される方・担当するスタッフも「わくわく」しながら一緒に楽しく、穏やかな時間を過ごすことができますように・・・との願いをこめて「わくわく」と名付け入院患者様を対象とし、毎週月・水・金曜日の午後活動しています。参加される方の“笑顔”と「楽しかった」の言葉が何より嬉しく、日々の活動の励みとなっています。

今後も患者様、御家族の穏やかな生活のお手伝いができるよう「明るく！元気に！美しく？」頑張ります。よろしくお願い致します。

「糖尿病看護認定看護師としての活動」

糖尿病看護認定看護師 内藤裕美

糖尿病は、自覚症状に乏しく、糖尿病であるという自覚を持ちにくく、療養行動に結びつきにくいと言われています。しかし、すべての患者様は、糖尿病とうまく付き合う力があります。その力が十分に発揮できるように支援することが糖尿病看護の果たす重要な役割と言えます。

そうした院内における糖尿病看護の活動内容を2つ紹介させていただきます。

1. 糖尿病教室開催（毎週金曜日、60分程度）

糖尿病患者様やご家族、糖尿病に興味がある方や心配な方を対象に糖尿病教室を開催しています。医師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、検査技師、看護師が講義の担当をしています。開催日、詳細については、当院のホームページをご参照ください。



2. 当院の糖尿病患者様を対象としたフットケアの実践

フットケアの実践の中では、なぜ糖尿病と足の関係があるのかを説明します（神経障害、血流障害、抵抗力の低下）。さらに糖尿病患者様の転倒の弊害は、運動療法の継続不可能、活動量の低下のなどに関連し血糖コントロール不良を招く可能性が大きいことを伝えています。転倒せずに安心して歩ける足のケア、自分の足で歩けることこそが健康長寿につながると考えます。

今後も患者様が「そのひとらしく」より良い人生を送れるように、あらゆる職種と連携をとり活動していきたいと考えています。



スマイルコンサート2017

ホスピタリティプロジェクトチーム 初鹿 あかね

この度、当院では平成29年2月18日（土）院内に特設ステージを設営し「山梨厚生病院スマイルコンサート2017」を開催しました。

このスマイルコンサートは、当院の基本理念「やさしく、親切、ていねいに」のもと、患者様に満足していただける病院づくりと接遇の向上を目的に活動している【HPT ホスピタリティ プロジェクトチーム】が中心となって企画・運営し、患者様が「元気に」、また「笑顔になってもらおう」という思いを込めて毎年開催しています。

毎年HPTメンバーで開催する季節に合わせた催しを企画し、今回は、新春2月の開催に合わせて2部構成の新春コンサートとなりました。

第1部では、日頃当院で活躍している女性職員3名が和装で出演し琴の演奏を披露しました。この日の為に練習を重ね、「千鳥の曲」、「春の光」をはじめ、演奏用に3名で楽譜を作成したディズニーソングなど6曲を披露し、穏やかで優しい春の光を表すような琴の音色が奏でられました。



また第2部では、甲州おもてなし芸人「かがみもち」さんによる夫婦太神楽の公演が行われ、見事なプロの技の連続に場内は笑顔と拍手に包まれました。みんなで技に挑戦する時間もあり、楽しい時間を過ごしました。

当日は何かと準備不足等あり十分なおもてなしが出来ない中、100名を超える患者様、ご家族にお越し頂いての開催に、メンバー、職員一同、皆様に支えられての病院と再認識する良い機会となりました。

当院では今後も患者様また地域住民の皆様にも少しでも喜んで頂けるコンサートや催しを企画・開催し「地域に開かれた病院」、「住民と共に歩む病院」を目指していきたいと思えます。



新着任医師紹介



土屋恭一郎 医師（糖尿病内科）

今年度からお世話になります糖尿病内科の土屋恭一郎と申します。出身は甲府市ですが、高校卒業後は山梨県外での生活が続いておりました。22年ぶりに山梨県に戻り、ふるさとの医療の最前線で働ける喜びを日々実感しております。

入職してまだ日は浅いですが、医長の小石先生をはじめ、職員の皆様に支えられながら新しい環境でのスタートを切ることができました。患者様のライフスタイルに合った医療を心がけ、患者様、病院、ひいては社会に貢献できるよう努力して参ります。まだまだ未熟者ですが、何卒よろしくお願い致します。



西澤琢磨 医師（小児科）

この春から山梨厚生病院に小児科医として赴任した西澤琢磨と申します。

出身は千葉県ですが、小学校は「山梨小学校」となぜか当県に縁のありそうな小学校出身でした。病院の目の前にも自分の出身校と同じ名前の小学校があり、妙な親近感を覚えております。

山梨大学医学部を卒業した後は、大学と焼津市立総合病院にて研修を行い、研修終了後に再度大学に戻り小児科医としての人生を歩み始めました。

その後は社会保険鵜沢病院（現 峡南医療センター 富士川病院）、山梨赤十字病院、山梨県立中央病院を経て、このたび山梨厚生病院に赴任いたしました。

今後も山梨の小児医療に貢献したいと考えております。なにとぞよろしくお願い致します。



奥原徹也 医師（脳神経外科）

脳神経外科の奥原です。桃とぶどうの王国である岡山に生まれ、桃とぶどうの王国である山梨で最先端の医療を学び、地域の皆様に最高の医療を提供すべく4月からこの山梨厚生病院に赴任になりました。最後の昭和世代で、小さい頃からの夢は「トラック野郎」でした。菅原文太のようなカッコイイ男には程遠いですが、熱く人情ある医療をモットーに、脳神経外科の“一番星”を目指して日々研鑽を積んでいきたいと思ひます。

脳卒中は時間との戦いです。手足に力が入らずに起き上がれない、呂律が回らず聞き取れない、思ったことがスムーズに言葉にならない。昨日までなかったそんな症状が今日になって突然出たら、それは脳卒中のサインです。一晩ぐっすり寝たら良くなっているかもしれない、なんてことは

ありません。一刻も早く病院を受診しましょう。脳神経外科は、夜間でも休日でも、24時間365日、脳の病気で困っている患者様を受け入れる体制を取っています。気になる症状があれば気軽に御相談下さい。

51 名の新入職員を迎えました



当会では平成29年4月1日付で保健師1名、看護師25名、介護福祉士2名、視能訓練士1名、薬剤師4名、作業療法士1名、臨床検査技師3名、精神保健福祉士2名、診療情報管理士2名、事務職員10名、計51名の新入職員を採用いたしました。

当会の理念である「やさしく・親切・ていねいに」の気持ちを常に持ち続け、各配属部署において、患者様をはじめ地域社会に少しでも貢献できるよう新人51名を含め、職員が一丸となり協力し合い、研鑽に励む所存です。何卒宜しくお願い致します。